

2012年春、教科書はこのように変わります。

英語：授業時間数は 315 時間から 420 時間に 1.3 倍

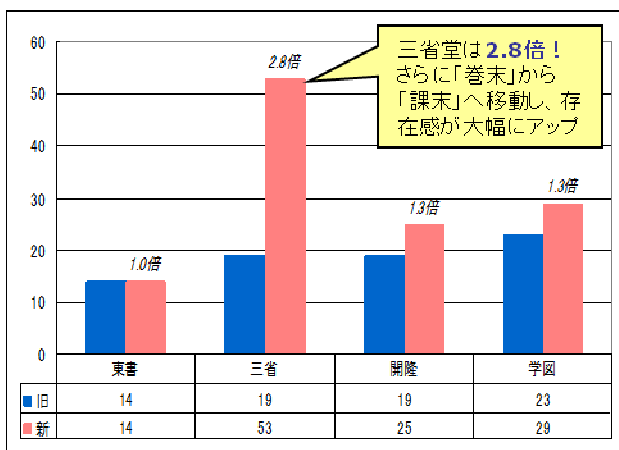
英語は質量ともに大幅ボリュームアップします。単語数は 900 から 1200 へ 33.3%も増え、文法の重視とともに内容もレベルアップしました。授業時間の最も多い教科だけに、求められる学力も相当高くなっています。

学習指導要領改訂のポイントを要約すると、以下のようになります。

① 文法力が強化されます。

→ 「聞く・話す」から「聞く・話す・読む・書く」にシフトし、読み書きの力の中心を担う文法力が重視されます。

(資料) 文法的説明頁数の教科書別比較(3学年合計)



② 文法解説が詳細になり、練習問題が増加します。

→ 「目的語」「補語」などの文法用語を使った詳細な文法解説を行い、練習問題も大幅に増えます。

③ 取り扱う文法内容が難化します。

→ 「～は扱わないものとする」「～は基本的なものにとどめる」といった制約(歯止め規定)が解除されます。

(資料) 指導要領に見る「歯止め規定」の解除

現

2. 内容(3) 言語材料エ 文法事項
 (ウ) b 関係代名詞のうち、主格の
 that, which, who及び目的格の
 that, whichの制限用法の基本的なもの
 (カ) to不定詞のうち基本的なもの
 (キ) 動名詞のうち基本的なもの
 (ケ) 受け身のうち現在形及び過去形



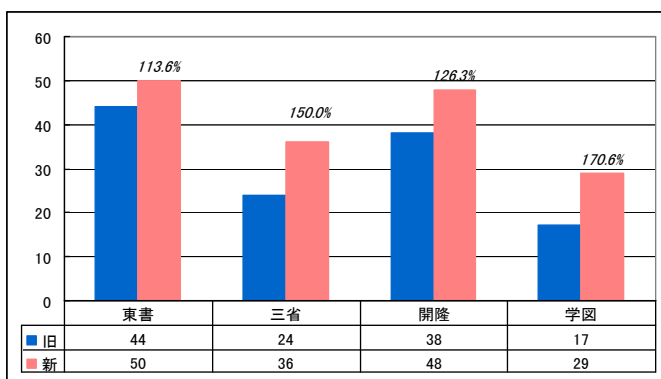
新

2. 内容(3) 言語材料エ 文法事項
 (ウ) b 関係代名詞のうち、主格の
 that, which, who及び目的格の
 that, whichの制限用法
 (カ) to不定詞
 (キ) 動名詞
 (ケ) 受け身

④ 読解力が強化されます。

→ リーディングページが増加し、入試問題のような英問英答もあります。

(資料) 読解(リーディング)ページの教科書別比較(3学年合計)



⑤ 語彙力が強化されます。

→ 単語数が 900 語から 1200 語に増え、「take」などの基本単語の用法が二倍になる。

数学: 授業時間数は 315 時間から 385 時間に 1.2 倍

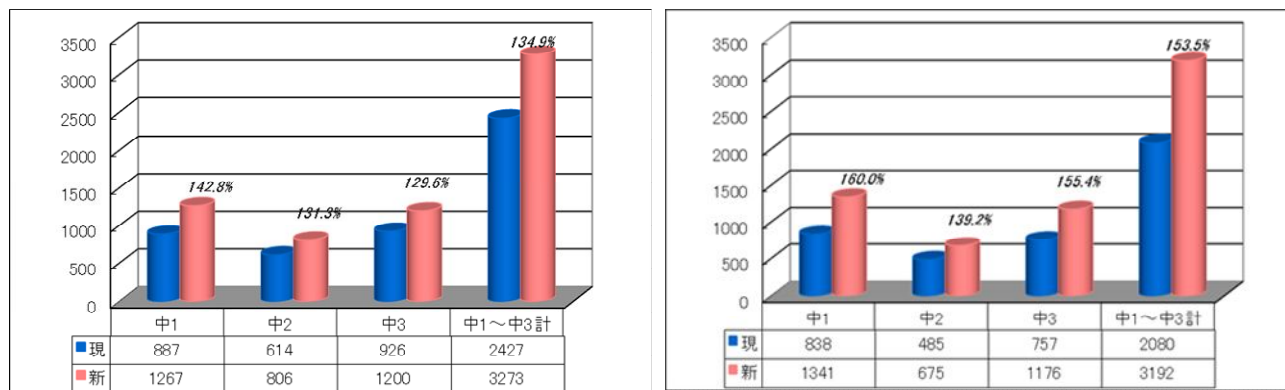
内容が 3 割増しになり、二次方程式の解の公式、球の表面積・体積といった項目が復活しただけでなく、問題数が増え、かつ難易度も数段上がりました。「理数系学力の充実」という文部科学省の方針が強力に表れています。

学習指導要領改訂のポイントを要約すると、以下のようになります。

① 問題数が増えます。

→ 特に中一では約 1300 問もあり、三学年を通して大幅(40%~50%)に増えます。

(資料) 数学「東書」vs.「啓林」 学年別小問数比較



② 問題が複雑になります。

→ 加減乗除の計算も桁数や数値が複雑になり、小学校の「比の性質」も一次方程式に取り入れられます。

③ 小学校の「ふりかえり」による丁寧な導入が行われます。

→ 新出内容に入る前に、小学算数の「ふりかえり」により、知識・技能の確実な定着を目指します。

④ 図形問題などが飛躍的に難化します。

→ 教科書に入試レベルの問題が激増し、入試での正答率が 3~5% になりそうな問題が登場します。

(資料) 教科書別発展問題の取り扱い

	項目	東書	啓林	学図	教出	大日本
中1	同類項	●				●
	カレンダー(文字式を用いた証明)			●		
	マイナスの指数					●
	(比の値を用いて) $ab=mn$ ならば $an=bm$ の証明	●				
	不等式を解く		●	●	●	●
	空間座標					●
	内接円・外接円(内心・外心)	●中3	●中2	●	●中3	●
	立体の切断	●	●	●	●中2	●
	球の体積を利用して表面積を求める		●			
	ドーナツの形の立体の体積					●
中2	相関関係・相関関	●中2		●		
	分散				●	
	箱ひげ図					●
	自然数の和	●				
	文字が3つの連立方程式	●	●	●	●	●
	文字が4つの方程式			●		
	期待値	●	●	●	●	●
	確率 積の法則					●
	確率・場合の数の応用			●		
	表計算ソフトの利用					●
中3	相関関係・相関関	●				
	立体の切断				●	
	角の二等分線(内心)	●				
	内接円・外接円(内心・外心)		●			
	複雑な虫食い算		●			
	小さい長方形・正方形を利用し、長方形を作る	●				
	奇数の和	●				
	最小公倍数と最大公約数を連除法にて求める	●	●			
	式の値(因数分解を応用)					
	(乘法公式を用いた)分母の有理化	●		●		
無理数の証明(背理法)		●			●	
2次方程式のxの値と式の値の変化のしかた	●					
たすきがけ				●		
不等式を解く				●		
2次関数(用語についての説明)	●				●	
$y=ax^2$ 以外の2次関数のグラフ	●			●		
変化の割合の公式 $a/(p+q)$		●				
放物線と直線との交点	●	●	●	●	●	
瞬間の速さ(2次関数の接線)				●		
関数の最大値				●		
(計算ソフトなどを用いて)放物線の開き具合を検証				●		
円に内接する四角形	●	●	●	●	●	
接弦定理・方べきの定理	●	●	●	●	●	
内接円・外接円(内心・外心)	●	●	●	●	●中1	
ポロノイ図(複数の点から等距離にある点)				●		
内接円的应用(算額)	●			●		
円の接線の応用(算額)			●			
三角形の重心(●中線)	●	●	●	●	●	
三角形の垂心・傍心				●	●	
二進法				●		

⑤ 総合的な学力が必要になる内容が増えます。

→ 単に問題を解くだけの力だけではなく、「読解力」「理解力」「判断力」「表現力」が重要視されます。

国語:授業時間数は 350 時間から 385 時間に 1.1 倍

今回の改訂では「思考力」「判断力」「表現力」を養うための「言語活動」の重視が大きなポイントです。その中核を担う中学国語の教科書だからこそ、ページ数が増えただけでなく、内容にも大きな変化があります。学習指導要領改訂のポイントを要約すると、以下のようになります。

① 常用漢字が 196 字追加されます。

→ 高校入試では少なくとも読み取り、中学校の定期テストでは書き取りまで問われる可能性があります。(資料) 追加される 196 字

挨 宛 闔 椅 畏 菱 茨 咽 淫 臼 唄 餌 怨 艶 旺 岡 臆 俺 苛 牙 崖 蓋
 骸 柿 顎 葛 釜 鎌 瓦 韓 玩 伎 畿 龜 僅 巾 錦 駒 串 窟 熊 稽 詣 隙
 桁 拳 鍵 眩 股 虎 乞 勾 喉 梗 頃 痕 沙 挫 塞 采 阪 埼 柵 拶 斬 鹿
 叱 嫉 腫 呪 蹴 拭 尻 芯 腎 須 裾 凄 醒 威 脊 煎 羨 腺 詮 膳 曾 狙
 遡 爽 瘦 捉 袖 遜 汰 唾 堆 戴 誰 旦 綻 耐 抄 椎 潰 爪 鶴 諦 溺 填
 貼 妬 賭 藤 懂 腫 析 頓 奈 那 謎 鍋 勺 虹 捻 罵 剥 箸 斑 汜 汎 眉
 膝 肘 媛 阜 蔽 蔑 蜂 貌 頰 睦 勃 味 枕 蜜 冥 麵 餅 冶 弥 湧 妖 沃
 嵐 藍 梨 璃 侶 瞭 瑠 呂 賂 弄 麓 脇 井 傲 刹 哺 喻 嗅 嘲 毀 彙 恣
 悞 慄 憬 拉 摯 隈 楷 鬱 壁 瘍 箋 籠 緞 羞 訃 諧 貪 踪 辣 錮

② 教科書が参考書化されます。

→ 文章を味わう「鑑賞」に比べ、文章の構成を理解して把握する「技能」のウエイトが高まり、教科書内での演習量が増えます。(資料) 変化する内容

課題・アドバイス例

- ・場面に分けて作品の構成を確認してみよう
- ・登場人物の行動や心情の理由を説明してみよう
- ・論理の展開をとらえよう
- ・場面や人物設定をとらえよう

量的変化例

光村図書「学習」コーナーのボリューム比較

- ・中1「少年の日の思い出」の場合
 [現行版] 約1.5ページ分 ・ [新版] 2ページ分
- ・中3「走れメロス」の場合
 [現行版] 約0.5ページ分 → [新版] 1ページ分

③ 近代文学作品が復活します。

→ 近代以降の代表的な作家の作品が掲載され、教科書の読み応えが増します。

④ 伝統的な言語文化に関する内容が増えます。

→ 歴史的背景などに注意して古典を読むことなど、古典に関する指導が重視されます。

⑤ メディアリテラシーの育成が図られます。

→ 新聞やテレビなどのニュースが編集されていることを学び、同一事象についての文章やグラフ・表などを読み比べ、評価する力を育てます。

理科: 授業時間数は 295 時間から 350 時間に 1.2 倍

1 分野、2 分野の上下巻という分冊形態から学年別に変わり、「物理」「化学」「生物」「地学」というカテゴリーは、新学習指導要領上は、それぞれ「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」という表記に変更されました。

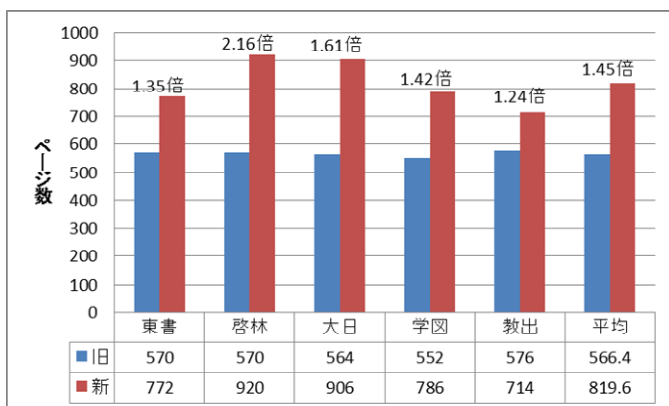
教科書全点合計ページ数の平均は、現行版教科書と比較すると約 45% 増。5 教科中もっともボリュームアップ率の高い理科は、内容的にも最も大きな変化のあった教科です。

学習指導要領改訂のポイントを要約すると、以下のようになります。

① 数多くの学習項目が復活します。

→ ページ数平均 45% 増加し、すべての学習内容がそろって完全復活します。

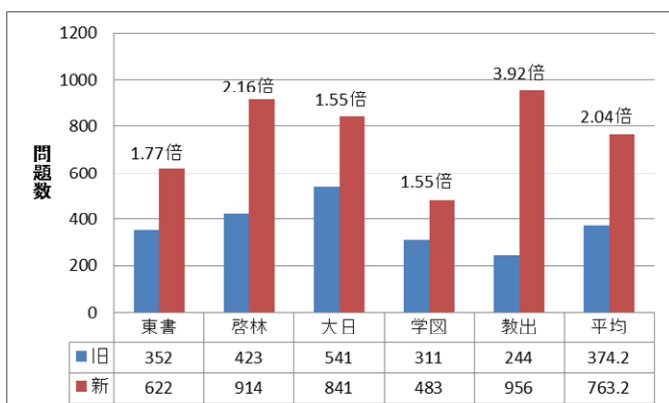
(資料) 主要 5 社のページ数の新旧比較



② 問題数は平均 2 倍だが、それに対して授業時間は 1.3 倍にしかありません。

→ 授業時間あたりの内容密度は 140% にまで高まることになります。こうした観点から、主要 5 教科の中で理科が最も生徒へ負荷がかかると教科となりそうです。

(資料) 主要 5 社の問題練習数の新旧比較



③ 実験や観察の切り口で構成される問題が主流になります。

→ 身近なテーマを素材とした問題も目立ち、実験や観察の手順の目的や、結果の考察について自由記述させるといった、高校入試や PISA 型の出題傾向とリンクした設問も盛り込まれています。

④ 日常生活や社会との関連を重視されます。

→ 自動車、電気、LED 照明などの日常生活を支える科学技術や、森林と水の循環、CO₂との関連といった環境問題など、社会と関連した科学知識と思考力を育てます。

⑤ 国際単位系への対応が図られます。

→ 力の単位ニュートン(N)や、エネルギー、仕事量、熱量の単位ジュール(J)など他に、速さの単位(m/秒がm/sに)など、表記に変更がみられます。

社会:授業時間数は 290 時間から 385 時間に 1.3 倍

2、3の地域の調べ学習から日本と世界の各地域の地誌学習へと回帰した地理、世界史が復活し四大文明も戻ってきた歴史、そして各分野を横断して総合的に社会現象を捉え、グラフや統計資料を読み取り表現する PISA 型学力の育成、と社会の内容も大きく変化しています。

学習指導要領改訂のポイントを要約すると、以下のようになります。

① 地理は「2,3の国や県を学習」から「世界と日本の全地域学習」へ戻ります。

→ 都道府県、世界の国々について2,3ピックアップして「調べ学習」を行うというスタイルから、世界や日本の諸地域を一通り学習するという従来の構成に戻ります。

(資料) 地理の学習内容の新旧比較

旧指導要領

1 世界と日本の地域構成	
ア 世界の地域構成	
ア 地球上の位置関係と水陸の分布	
イ 国々の構成と地域区分	
イ 日本の地域構成	
ア 日本の位置と領域	
イ 都道府県の構成と地域区分	
2 地域の規模に応じた調査	
ア 身近な地域	
イ 都道府県	二つまたは三つの都道府県、
ウ 世界の国々	
3 世界と比べて見た日本	
ア 様々な面からとらえた日本	
ア 自然環境から見た日本の地域的特色	
イ 人口から見た日本の地域的特色	
ウ 資源や産業から見た日本の地域的特色	
エ 生活・文化から見た日本の地域的特色	
オ 地域間の結び付きから見た日本の地域的特色	
イ 様々な特色を関連付けて見た日本	

新指導要領

1 世界の様々な地域	
ア	世界の地域構成 地球儀・世界地図、緯度・経度、大陸と海洋、主な国々の名称と位置、地域区分
イ	世界各地の人々の生活と環境 世界各地の人々の生活の様子とその変容と自然的及び社会的条件
ウ	世界の諸地域
	ア アジア
	イ ヨーロッパ
	ウ アフリカ
	エ 北アメリカ
	オ 南アメリカ
	カ オセアニア
エ	世界の様々な地域の調査
2 日本の様々な地域	
ア	日本の地域構成 わが国の位置、時差、領域の特色と変化、地域区分
イ	世界と見比べた日本の地域的特色
ア	自然環境
イ	人口
ウ	資源・エネルギーと産業
エ	地域間の結び付き
ウ	日本の諸地域
ア	自然環境を中核とした考察
イ	歴史的背景を中核とした考察
ウ	産業を中核とした考察
エ	環境問題や環境保全を中核とした考察
オ	人口や都市・村落を中核とした考察
カ	生活・文化を中核とした考察
キ	他地域との結び付きを中核とした考察
エ	身近な地域の調査

日本のいくつかの地域に区分し、それぞれの地域について(ア)~(キ)で示した考察を基にして地域的特色をとらえさせる

いくつかの地域
九州地方、中国・四国地方、
近畿地方、中部地方、
関東地方、東北地方、北海道地方

② 日本の7地方を7テーマで考察します。

→ 教科書によって学習する都道府県が異なるという、これまでの難点がほぼ解消され、入試でも、日本の各地域の特色を問う問題がより出題しやすくなります。

(資料) 新教科書の地域と考察テーマのばらつき

	東書	帝国	教出	日文
九州	環境問題・環境保全	自然環境	環境問題・環境保全	環境問題・環境保全
中国・四国	人口や都市・村落	他地域との結び付き	人口や都市・村落	人口や都市・村落
近畿	歴史的背景	環境問題・環境保全	歴史的背景	歴史的背景
中部	産業	産業	産業	産業
関東	他地域との結び付き	人口や都市・村落	他地域との結び付き	他地域との結び付き
東北	生活・文化	生活・文化	生活・文化	生活・文化
北海道	自然環境	歴史的背景	自然環境	自然環境

東書・帝国・教出の学習順序

九州→中国・四国→近畿→中部→関東→東北→北海道

日本の学習順序

北海道→東北→関東→中部→近畿→中国・四国→九州

③ グラフや統計資料を読み取ります。

→ 高校入試におけるPISA型の読解力・判断力・思考力・表現力を問う傾向と一致しており、知識を活用するという観点から、歴史や公民との融合も含め、さらに重視されます。

④ 「四大文明」など、世界史が復活します。

→ 歴史に世界史の内容が復活し、歴史全体を通して覚えるべき重要語句が大幅に増加します。

(資料) 各教科書の四大文明の取り扱い

	東書		帝国		日文		◎本文太字 ○本文 □表・図・写真キャプション・欄外の注など ×記載なし
	新版	旧版	新版	旧版	新版	旧版	
エジプト文明	◎	□	◎	□	◎	□	
象形文字	○	×	□	×	○	□	
メソポタミア文明	◎	□	◎	□	◎	□	
くさび形文字	○	×	□	□	○	□	
ハンムラビ法典	×	□	×	×	×	□	
インダス文明	◎	□	◎	□	□	□	
中国文明	◎	○	◎	◎	◎	◎	
殷	◎	○	◎	◎	◎	◎	
周	○	○	◎	×	×	×	
甲骨文字	◎	○	◎	◎	◎	○	

⑤ 言語活動、伝統文化に関する教育が充実されます。

→ 温室効果ガスや捕鯨問題を題材にした討論があったり、国際的に高い評価を得ている日本のアニメーションの源流として平安～鎌倉時代に描かれた「鳥獣戯画」を紹介したり、遺体を棺に納める納棺師を描いた映画「おくりびと」を取り上げたり、多様な文化について触れる内容が掲載されます。